


<活動報告書>

フリガナ	ナガノケンマルコシュウガクカンコウトウガッコウ	
①団体名・学校名	長野県丸子修学館高等学校	
②担当者	フリガナ	
	氏名	
	所属 役職	工業分野 主任
	TEL	0268-42-2827
E-mail		
③申請テーマ	伝統建築大工技術を学ぶ	
④活動期間	令和2年6月20日 ~ 令和3年2月10日	
⑤活動内容を記載	<p>本年度、丸子修学館高校では伝統的な大工技術を学ぶ活動を展開している。本校では、2年次から工業分野選択者が土木・建築を学ぶかたちのカリキュラムとなっているが、従来は専門高校と異なり高校の限られた時間内で、生徒たちがものづくりの魅力を体験することが十分ではなく、それが進路に活かされることもあまりなかった。そこで本年度は建設業の第一線で活躍してきた地域の木工棟梁を外部講師として招聘し、伝統的な建築大工技術を学び、専門的な技術の習得と地域の方々との交流、そしてこれまでの授業では体験できなかった実習体験を積むカリキュラムを組んだ。</p> <p>実習では、角材へのノミの向きや当て方、木材の接手となるほぞ穴の加工方法を教わり、屋根の棟木に、軒に向かって斜めに垂木を取り付けるなどの指導をいただいた。実習では、女子生徒が角材のほぞ穴の刻み作業の中で最初は上手く鑿と玄能を扱えなかったが、徐々にコツを掴み、ものづくりの楽しみを実感していた。</p> <p>また最終回では、棟木に対して垂木を軒に向かって斜めに取り付けるなど、屋根部分に用いる工法も学び、日本家屋に対する理解を深めた。</p>	
⑥活動費用合計	200,634円	
⑧別紙説明資料の有無	ある ・ なし	

<活動状況写真>

【写真1】



(状況説明)
第一回実習として、墨刺づくり、墨ツボの準備、鑿、鉋の刃研ぎ、等の事前準備を行いその後、三寸角に墨付け、合印、を施す為に曲尺の使い方を宮坂棟梁から指導を受ける。

【写真2】



(状況説明)
前回の実習で学んだ墨付けを基にほぞ穴実習練習として、鑿と玄能を用いてほぞ穴墨に沿って鑿で刻みを行っている。生徒たちは、初めて行うほぞ穴作りで慎重に鑿と玄能を使った実習を行った。

【写真3】



(状況説明)
各種接手の使用場所や接手の構造等を宮坂棟梁が原寸大の見本を用いて、実際の部材に墨付けと刻みを解説と説明を交えながら生徒に実演を行った。自由スコヤの使用方法和漏斗製作。各自の製作作品と講師の宮坂棟梁を囲んで記念写真